

『ピカッと』(第6稿—2019.5.20)

作 兼島拓也

【0】

開場後、開演までの間に複数名の役者が出てきて、舞台上に小さな柱をいくつか建てる。その柱の配置で、舞台上の空間が仕切られる。

【1】 第1場

春樹、フォームレス・プリンタ(以下、ト書きでは「FP」と記載)なるものを手にして部屋に入ってくる。

春樹 ただいま。
大輔 おかえり。どこ行ってた。
春樹 あー。ちよつと友達と。
大輔 ご飯?
春樹 あー、うん……。

春樹、FPをテーブルの上に置き、荷物を置きに一旦自室に入りすぐに出てくる。

大輔 なにこれ?

春樹 え? これ? いや、なんかちよつとおすすめされてから……べつに最初は全然そんなアレなかったんだけど、ちよつと話聞いてみたら、なにこれちよつと面白そう、みたいな、でだんだん、あ、結構いいかもしれんこれは、つてなって、これ買わんで帰ったらちよつと損なんじゃないかとかつてなって、いちおう次いつ会えるかわからんし、てか次会ってもそもそも残ってるのかとか全然わからんし在庫。なんか限定商品っぽかったから、つていうのとかいろいろ、総合的にアレして、もう買っちゃおつてなったんだけど。

大輔 うん。え、その友達から?

春樹 あーうん。もしこれ使ってみて結構いいなーつてなったら、まだ在庫残ってたらしよつから仕入れて、俺の友達とかにも売っていてもいいみたいだから。部品とかの期限が何ヶ月とかつていうのがあるらしい

んだけど、それはそいつとかから仕入れてアレしれぱずつと継続的に使えるし、俺から買った人とかも俺からその部品とか買えば、俺もちよつとは潤うし、みんながハッピーっていうか、ウィンウィンやつつていう。

大輔 ……うん。だから、なにこれ?

春樹 え?

大輔 なにするやつ?これ。

春樹 あ、わからん?これ。見たことない?

大輔 ないから聞いてるんやつし。

春樹 (FPの箱を見ながら)ピカッとプリント

……フォームレス・プリンタ。つて

大輔 フォームレス・プリンタ? なんかそれ。

プリンタば?

春樹 (箱から取り出す)あ、なんかよ、ここの

ボタンみたいな押してみて。

大輔 どこがプリンタよこれ。

春樹 いいから。

大輔 (指しながら)ここな?

春樹 そうそう。あ、その前に、なんか想像して。

大輔 なにをよ?

春樹 いや、なんでもいいんだけど、なんか考え事とか、なんらかのイメージをアレして、

で、押して。

大輔 ……いやだ。

春樹 なんですよ。

大輔 なんかいやだ。

春樹 は？ ……わかった、じゃあ見てて。

大輔 なにを。

春樹 俺が押すから。

大輔 なんですよ。

春樹 いいから見とけ。(押す)

ピカッと光る。

大輔 (少し驚き) ……なに？

春樹 光るわけよ……。

大輔 は？ そんだけ？

春樹 あ、いやいや、光るアレだけじゃなくて、

なんかお腹空いてきたやんに？

大輔 急になんか？

春樹 ちがう！ お腹空いただろ？

大輔 は？ 知らんよ。

春樹 なんですよ、空いたって言え！

大輔 なんですよ！

春樹 だって俺がお腹空いてるのに！

大輔 話よ！ ってかやー飯食いに行ってたん

じゃないば？

春樹 メロンソーダしか頼んでんし。

大輔 知らんし。

春樹 俺はいまお腹空いてるって念じたわけよ。

カレー食べたいなーって。それがお前に印

刷されてるばーよ。

大輔 なんかい印刷って……ってかでも、なんか

そんなって言われたらカレー食べたくなっ

てきたやつさ。

春樹 だろ？

大輔 食いに行く？

春樹 いかん。

大輔 なんですよ。お腹空いたんだろ。

春樹 まだプリンタのアレの途中。説明の。

大輔 いいよもう。後で説明書読むよ。

春樹 よくない。一応いまピカってなったやつ

し？ そんときにプリントされてるわけよ。

大輔 は？ なにが？どこに？ どうやって

よ？ 紙も何も出てきてんけどどこがプリ

ンタば？これは。

春樹 そんな一気に質問しないで。一個ずつに

してもらっていい？

大輔 やーは俺をからかっているば？

春樹 さつきと質問ちがくない？

大輔 うるさい。なにが言いたたいばやーは！

か、それを、人に印刷するわけよ。

大輔 ……全然なに言ってるかわからんやつさ。

これ絶対胡散臭いやつだろ。

春樹 これ押すときに、押した人が考えてた想

像っていうか、イメージみたいなのが、こ

のピカッというライト見た人の、これは脳

にっってことなのかな？ なんかボタン押し

た人のそのイメージみたいなのが、見てた

ほかの人にも印刷されるっていうアレらし

いわけよ。(台詞の途中どこかのタイミン

グで、大輔はボタンを押す。ピカッと光る)

大輔 ……え、なにそれ宗教？

春樹 ……ね、一応俺も喋りながら、なんか胡

散臭いなーって思い始めてるんだけど、い

まになって。

大輔 は？

春樹 ……なんでもかな、さつきまでめっちゃ良

いって思ってたんだけど。

大輔 ……え、じゃあ俺が今カレー食べたいの

は、やーが考えたことが俺に印刷されてな

ってるってこと？

春樹 うん。っていうふうの説明されたんだけ

ど。は、でも待って、たぶん騙されたのか

な？おかしいよな、普通に考えたら。

大輔 ……まあ(FPを凝視している)

春樹 待つとけ、あり得ん。え、しにムカつい

てきた。絶対騙されてるやつきこれ。まじ

か……ごめん、ちよつとこれ返してこうな

(とFPを掴もうとする)

大輔 (遮って) 待って。

春樹 なに？

大輔 (ボタンを押す)

ピカッと光る。

春樹 なにしてる。

間

大輔 (春樹にゆっくり視線を移して) ほんとに

返してくる？

春樹 え？ ……どうしよう。でも今返したら

やっぱアレかな？ まだちゃんと使っても

ないのにそういう、騙されたとか、もしか

したらちゃんと使えるかもしれないし。もう

ちよい様子見てからアレした方がいいよう

な気もしてきた。

大輔 ……そうだな。

間

大輔 (ボタンを押す)

ピカッと光る。

春樹 ……ちよつとき。うーんでも、アレかな、

これちよつと、常識としてっていうか、倫

理的なアレでどうかな？ っでは思うんだけ

ど。

大輔 うん。

春樹 ……実験というか。

大輔 あー、うん。

春樹 ちよつとき、外でっていうか、俺たち

外の人とかでもちよつと試してみたいなあ

っていうか……。

大輔 あー、うん。

間

春樹 いや……でもあれだな。やっぱまずいよ

なそれは。

大輔 あー…… (ボタンを押す)

ピカッと光る。

春樹 ……でもあれかな？

大輔 うん？

春樹 なんか、そんな重大なアレとかじゃな

れば。イメージが。かるゝい感じの、たと

えば映画観に行きたいなゝみたいなの、そん

なレベルなら大丈夫なような気もする。

大輔 あー、うん。

春樹 いいと思う？

大輔 まあ、やーがやりたいならいいやんに？

春樹 ……そうだな。

大輔 とりあえず、カレー食べに行く？

春樹 だあるな。すぐ出れる？

大輔 ああ、まあ (携帯と財布を見せる)

春樹 あ、じゃあ待つてよ。(自室に戻る)

大輔 (FPを手にとって眺める)

春樹 (戻ってきて) じゃあ行きますか。

大輔 ほい。

二人、部屋を出て行く。

【2】 第2場

ファミレスかどこかの店内。

男女、向かい合って会話をしている。

二人に挟まれたテーブルの上には、グラスや皿がいくつか置いてある。
女、原稿を読んでいる。

- ②女 ほんとにあった話？
- ②男 いや、どこまでがアレかはわからんけど一応フィクションだとは思うよ。
- ②女 このさ、春樹さんと大輔さんの関係はさ、これってアレ？ 恋人的なやつ？
- ②男 あー、いや、どうだろう。特にどうかは言われてんから。
- ②女 え、でもなんか同棲してるっぽくない？
- ②男 そうなの？
- ②女 だってなんか、(とある箇所を指す)ほら「ただいま」「おかえり、どこ行ってた」とかってこのくんだりとか完全同棲でしょ。
- ②男 ルームシェアとかじゃなくて？
- ②女 えー、でもこれは絶対そうだよ。え、B L?これ。きのう何食べたの？
- ②男 ちやうちやうちやう。
- ②女 ちがうの？
- ②男 違うでしょ。まあ一応書いた本人に聞かんとアレだけど。
- ②女 ……え、付き合ってるの？
- ②男 いや、だから春樹に聞かんと——
- ②女 (さえぎって)じゃなくて！ほんとに付き合ってる？
- ②男 は？
- ②女 いや、だから、現実でアレしてるの？付き合ってるの？ 台本の話じゃなくて。
- ②男 え、俺と春樹が？
- ②女 うん。
- ②男 えーやめて。なわけないでしょ。
- ②女 でも現実と虚構がどうこうって言ってたじゃん。
- ②男 絶対虚構の方でしょ。
- ②女 でもわたしアレだよ。そういう同性愛とか、LGBTとか全然。オツケーだから。
- ②男 ああ……でも違うからね。
- ②女 ……でも、好きは好き？
- ②男 誰を？
- ②女 春樹さん。
- ②男 俺が？
- ②女 うん。
- ②男 なんでよ！
- ②女 だってさ、大輔さんさ、いつも春樹さんの話しかないじゃん、わたしといるとき。
- ②男 いや、それはあれさ、その、二人で演劇作ってるからさこんなって……だからべつにそういうアレじゃなくて、話のネタとしてのアレだよ。
- ②女 でも春樹さんは好きでしょ、確実、大輔
- ②女 (原稿から顔を上げ)ふーん……
- ②男 どんなんだった？
- ②女 うん……そうだね。なんだろう。
- ②男 あんまり？
- ②女 いや、おもしろいよ。おもしろいっていうか、おもしろくなりそう。
- ②男 ああ……たしかにまだ第一場だけだしね。
- ②女 ……で、これはどっちが、アレ？ 大輔さんはどっちの役やるの？
- ②男 (台本のある箇所を指しながら)俺はもちろんこつちよ。大輔。
- ②女 あ、じゃあそのまま大輔さんが、大輔役でやるわけね。
- ②男 まあ、うん。なんか、現実と虚構が入り混じった世界観みたいな、感じらしい。
- ②女 じゃあ春樹さんがそのまんま春樹としてアレなんだ、演じるんだ。
- ②男 そうそう。
- ②女 え、じゃあこれリアルなの？
- ②男 ん？

さんのこと。ラブでしょ。

②男 いやー、それもないでしょー。

②女 だってこんなって台本に書くー？普通。

②男 だからただの作り話だからねこれは。

②女 えーでも現実かもしれないさー虚構じゃなくて。春樹さんに聞かんとわかんないじゃないそれは。

やんそれは。

②男 そうだけど。

②女 ほらー。聞こう聞こう。ラインしよ。

②男 なんでよ。

②女 えーいいじゃん。勢いだよ勢い。こういうときは。

②男 いいよ別に。さつきから言ってるけどそ

ういう関係じゃないし、春樹のことも好き

じゃないから。ラブじゃないから。

②女 そうなの？

②男 うん……。

②女 (スマホを操作しながら) 大輔さん何座？

②男 なにが？

②女 星座。

②男 やぎ座。え、占い？

②女 うん。春樹さんは？

②男 いいよ相性とか占わんで。

②女 いいさー、一回一回。

②男 っていうかわからんしあいつの星座とか。

②女 えーそうなの？

②男 知らんよ。

②女 はー。じゃあとりあえずやぎ座のアレを。

(しばらく画面を見てから) あー。……あー、そうなんだ。

②男 なに？

②女 (一瞬②男の顔を見て、すぐに戻す。少しニヤけている) あー。

②男 なになに？ なんかめっちゃ怖い。

②女 はいはいはい、なるほどね。

②男 え、なに？

②女 (②男を再び見て) あー、つばい！

②男 なにが？

②女 浮気したことは？

②男 え、俺？

②女 うん。

②男 ないよ！

②女 (凝視)

②男 ほんと！

②女 ふーん。

②男 信じてないでしょ。

②女 信じてるよ。

②男 ほんとに？

②女 うん。占いを。

②男 なんでよ。

②女 でも一応モテそうだしね。

②男 え、俺が？

②女 モテるでしょ？

②男 どっちに？

②女 どっちにも。

②男 いやいやいや。

②女 特に男。

②男 なんでよ。

②女 たぶらかしてたな。

②男 してんし。

②女 ふーん。

②男 また。(女の空になったグラスを指し) な

んか頼む？

②女 お、出たモテ技。

②男 うるさい。……見して？

②女 なに？

②男 占い。

②女 えーダメ。

②男 なんでよ。

②女 あとで調べて。

②男 やぎ座は浮気性とかって書いてあった

の？

- ②女 え、すごい！ なんでわかる！
- ②男 あなたが言ったんでしょ？
- ②女 え、もしかして占い師？
- ②男 なんでよ。
- ②女 ユタ？ ユタだ！
- ②男 なんてユタよ。
- ②女 やばい、ユタ……ねえ、いま何時？
- ②男 え、(スマホを見て) 11時半くらい。
- ②女 わ、すごい！ ユタだ！ 何時かわかっている！
- ②男 めっちゃおちよくられてる。
- ②女 あ！
- ②男 なに？
- ②女 これあれじゃん、いま、浮気じゃん？
- ②男 は？
- ②女 だから春樹さんからしたら今大輔さん浮気してるってことになるよ。
- ②男 ならんし。
- ②女 ならんしってことは、付き合ってるはいるってことだ。
- ②男 しつこい。マジで。
- ②女 ついにボロを出したな。
- ②男 もう帰っていい？ なんなの？
- ②女 ごめんごめん、冗談冗談。

- ②男 ……
- ②女 え、キレてる？ え、ウソ。ごめんごめん、ごめん、そういうアレじゃなかった。
- ②男 マジで……何回も否定してんのにこんなってひたすら言われたらキレるでしょ普通。
- ②女 ごめん。
- ②男 っていうかさ、話があるからって呼び出しといてこの話な？ それだったら俺もう帰るよ？
- ②女 待って、もうちよつとしたらアレ……
- ②男 なに？
- ②女 待ってよ。(電話をかける)
- 相手は電話に出ない。電話をしまう。
- ②女 いいやもう。ふう。……あのさ、今日は、大輔さんにオススメしたい商品があって。
- ②男 は？ なにそれ。商品？
- ②女 ほんとは、別の人も来ることになって、わたしの先輩っていうか、なんていうのかな、師匠みたいな人なんだけど。
- ②男 なに？ 師匠って。空手とかやってんの？
- ②女 いや、やってないけど。
- ②男 え、その人がなんなわけ？

- ②女 や、なんかその人に会わせたいなって思ってたわけ大輔さんを。その人も大輔さんと話したいって言ってたし。
- ②男 え、なんで？
- ②女 や、いろいろちよつとアレで……でもなんか連絡ないし。二時には来るって言ってただけど。だからもうわたしがアレしていい？
- ②男 なに？
- ②女 (FPを取り出し) 一回これ見てて。
- ピカッと光る。
- 【3】 第3場
- ③男 というとなにか？ 台本読んで思ったんだけど、お前はあれか？この大輔って男が好きなのか？ それで、大輔と恋人同士っぽい春樹ってやつに嫉妬してるって考えていいのか？そういうことなのか？そういうふうなうけとめてもいいのか？ そういうふうなことだと解釈した上で、その前提で俺はこれからの話を展開してくわけだけどそれでいいのか？いいのな？

一応もし、この男に限らず、お前がやぎ座の男と付き合いたいと思ってるんだっただら、やめたほうがいいとは言わんけど、気をつけたほうがいいよってことだけは言っとくよ。一応やぎ座の男は、女もそうだけど、だからやぎ座は全体的にそうだから、恋人がいたとしてもすぐ他の人に目移りするとか火遊びするとかそういうところがあるから、もし付き合うってなったらそうなる可能性もあるよってことよなつまり。っていうかもしかしたらお前自身か二人目三人目っていう可能性も大いにあるわけだからそこらへんどうするかっていうところよな。ただ、二人目とか三人目とかっていうのはただ単に時系列の問題だから、べつにヒエラルキー的に一位二位三位っていう話では単純にないわけよ。二人目三人目とかっていう呼び方が悪いんであって、順位じゃないわけよ。浮気をしてる当の本人は、みんな愛してます！みたいな。博愛みたいな。AさんとBさんとCさんっていう三人の恋人がいたとして、どっちかを選べみたいなのほうが間違ってるっていうか。っていうか、ちよつとこうい

ふうん考えて欲しいんだけど、もしこの世界の中では恋人は一人につき一人までですみたいなコンセンサスがあるとして、でも俺は、俺はっていうか浮気をする人間は、一つの世界の中で生きてるんじゃないやなくて、いろんな世界を重層的に生きてるといふか、そういう感じだわけよ。だから、Aさんと恋人同士である世界がここにあったとしたら、また別のところに俺とBさんが恋人同士っていう世界もあるわけさ。だからそれぞれの世界の中では、純粹にその目の前の人を愛してるわけよ俺は。で一般的なように、Cさんのこともまた別の世界では愛してるわけよ。ただ、その世界っていうのは3つあったとしても重なってしまっただら、ほんとは別々なんだけど、重なってるからたまにAさんとBさんがバッティングしてしまうってことがあるわけよな。問題はそこよ。こんなっていろんな世界が重なってるっていうのを知ってる人だったらいいんだけど、AさんとBさんが。Cさんも。でも普通の人は、普通の人っていうか大抵の人は、そんなこと知らないから、え、なんであんな私と付き合ってるのにその女

と遊んでんの？みたいなことになっちゃうわけですよ。そこで揉めちゃうわけよ。だからみんながもつとメタレベルを上げるっていうか、そうしないといけないわけよほんと。そういうふうな世界認識をアップデートしていかないと、恋人と幸せに暮らすとかもそうだし、もつという人間関係をどう良好にしていくなとか多様性を尊重するとはどういうことかとかさ、大げさなアレじゃなくて世界平和についてとかそこらへんのこと、ぜんぶ世界認識をどれだけ個々人がアップデートしていかかっていう問題に尽きると思うんだ俺は。でもこれはまた別の問題もあって、世界が重なってるのをどう認識していかみみたいな話をしたときに、いやいやそんなやらしいこととか難しいこと考えんていいですよみたいな、そんなことより踊ろうよみたいな、そここの闘いよな。世界が閉じてるほうが楽しいとか幸せって思ってる人のほうがたぶん多いばあよな。そこ俺たちは闘わんといかんわけよ。だから、俺もお前も、なぜその認識をアップデートしていく必要があるのかっていうのをもつと説得的

に語れるような、もっとそこらへんの言葉を持たないといけないんだよ。わかっているか？大輔！

で、俺が話したかったのは、つまり人はいつか死ぬってことなんだけど。それを今日は本当は話そうと思って、それでお前に会おうってなつてたわけよ。……人はいつか死ぬ。っていうのは、わかるだろ？で、だよ。わかるかな？わかるよな、俺が言いたいこと。さっきの鬨い話のアレで言うと、どうせ俺たちは勝てないんだよ。

世界が重層的で云々とか言ってるよりも、それより僕と踊りませんか？ってほうがモテるし、生きやすいわけよ。だから俺たちがやるべき方向性というのは、世界を壊すっていう。でも壊すつてことはアレよ。スクラップアンドビルドよ。壊したら、またあたらしく、世界は重層的なんだよって、みんなが気付いているような世界をつくりあげればいいわけよ、一から。そっちの方がよっぽど可能性があるわけよなどう考えても。で、そのためにはどうするかっていうと、お前が死ぬ。それで世界の破壊はほぼ完了。っていう仕組みになつてるわけ。

わかるかな？わかるよな、俺が言いたいこと。お前がまず死んで、その後で、それ以外の人が次々に、次々についていかほとんど同時のタイミングでみんな死ぬ。っていうか他の人とか世界は死ぬっていうよりシヤットダウンするって感じだな。ということとはつまり、お前が死んだ瞬間もうこの世界はほとんど終わりっていうことになるんだけどわかるか？言ってる意味。お前が死んだら終わりなんだよこの世界は。だから、俺が言いたいのは、早く死ぬ。こんなクソみたいな世界終わるんだつたらはやく終わらせたほうがいいやつし。だろ？お前も思うだろ？だからお前がまず早く死ぬ。そうしたら俺も、みんなも死ぬ。この世界終わる。わかるか？みんながお前に期待してるってことわかるか？終わらせてしまえばいいやつし、こんな世界。な？な？死に方は、うーん……任す！いいよ？どんなでも。むしろ何がいいってある？死に方。死因？っていうのかなこれは。一応はやく決めてもらっていい？カレー食いに行くことなつてるわけよ……じゃあちよつとだけ時間あげるから、その間に決めれよ。俺ち

よつと飯食ってくるから、友達と。大丈夫だよな？じゃあ決めとけよ（と、去っていくがすぐに戻ってくる。）あ、やーもし食べるんだつたらなんか買ってくるか？いらん？じゃあ帰ってくるまでにアレな、決めとけよ（去っていく）

【4】 第4場

大輔と春樹、二人でカレー屋の前に行ってくる。店の前には、どうやら長い行列ができていているらしい。

大輔 なんでこんな混んでるば？

春樹 だからよ。

大輔 どうする？並ぶ？

春樹 あー、どっちでもいいけど。

大輔 まあ、でもいっか。

春樹 うん。

二人、並ぶ。

大輔 この店こんな人気あつたっけ？

春樹 わからん、最近来てんかつたし。

大輔 やっぱアレかな。最近多いさ、中国とか
韓国の人。観光客？

春樹 あー、ね。ラーメン屋とかめっちゃ並ん
でたりするしね。那覇とか。

大輔 向こうが本場なんじゃないば？

春樹 でもあれやんに？ 日本のラーメンのア
レってすごいって言うさ。

大輔 ああ……やっぱ向こうのネットとかにも
あんなのかな？ここが美味しいよみたいな。

春樹 あーぐるなびの中国版みたいな？

大輔 そうそう。でも、あんな並ばんでも他に
美味しい店とか食べ物とかあるのによ。

春樹 まあでも、先に写真とか口コミとか見ち
やったら、ここに行ったら絶対これは食べ
ようみたいなアレになるやんに？

大輔 あー、そっか。

間

大輔 結構かかるかな。

春樹 だな。

大輔 ……ちよつと思っただけだよ。

春樹 うん。

大輔 ……いや、いや。

春樹 なに？

大輔 ……いや、なんか、あつちにそば屋ある
のになーとかって思っで。

春樹 ああ。みんなカレー食いたいんだろ。

大輔 なんかよ……（FPを取り出して）一応
まだこれがそもそもバッタもんっていう可
能性もまだあれだけど、仮によ？これが本
当にそういう脳に印刷とかできるっていう
アレだったとしてさ。

春樹 うん。

大輔 これさ、言った言葉と、考えてることと、
どっちがアレば？ 強いつていうか。優
性？つていうの？

春樹 うん？

大輔 いや、だから。なんらかのアレを口に出
して言いながら、まあ頭の中でだけでもい
いんだけど、ボタン押すとするさ？そのと
きって、普通はそうやって考えてるからそ
の言葉が出てきたってことさ。

春樹 うん。

大輔 でもわざと、思ってることと違うことを
無理やり言ったり考えたりしてアレしたら、
どうなるの？ どうなるのっていうか、ど
っちが印刷されるば？

春樹 うん。

大輔 ……いや、それは、アレやんに？

春樹 なに。
アレだろ。ケースバイケースだろ。
大輔 なんかせれ。
春樹 いや、俺もよくわからんけどさ。

大輔 ちよつと実験してきていい？

春樹 なんの？

大輔 ちよつとよ。

春樹 ちよつとよ。

大輔 ちよつとよ。

春樹 なんの？

大輔 ちよつとよ。

春樹 なんの？

大輔 ちよつとよ。

春樹 なんの？

大輔 ちよつとよ。

春樹 なんの？

大輔、行列から離れたところまで移動
し、行列のあるがわにFPを向けて立
つ。軽く下を向いて、深呼吸。

大輔（顔を上げ）あ！ あ！
大輔、ボタンを押す。
ピカッと光る。

大輔、ゆっくり戻ってくる。

大輔、ゆっくり戻ってくる。

大輔、ゆっくり戻ってくる。

大輔、ゆっくり戻ってくる。

大輔、ゆっくり戻ってくる。

大輔 実験。

春樹 だからなんのよ？

大輔 いいやつし。……アレやつき。思ったよりは減らんな。

春樹 また変なことやっただろ。

大輔 べつに。

春樹 ……ってかさ、めっちゃ時間かかりそうだし、やっぱあっちのそば屋に行かん？

大輔 あ！

春樹 なに。

カレー屋の店主が出てくる。

キョロキョロ見渡している。

ふたりに近づいてくる。

店主 お前か？

大輔 はい？

店主 ピカってやっただろ、いま。

大輔 は？

店主 営業妨害だろそれは。

春樹 いやいや、何言ってるんすか？何もしてないっすよ俺たち。

店主 はっさ。俺の苦勞をなんだと思ってるのかお前たちは！

春樹 なにが？

店主 こつち来い！

春樹 いいよ、俺たちそば屋に行くから。

店主 なんか？ いいよアレか、お前たちは、

向こうの差し金か。

大輔 ちがうよ？待っておじさん話聞いて。

店主 ……（小声で）わかった、すぐ食べさすからこつち来い。お金もいらんから。

大輔、春樹、顔を見合わせる。

店主（小声で）はやく来い。

ふたり、店主の後をついて行く。

【5】 第5場

女、原稿を読んでいる。

男、紙の束を持ってやってくる。

⑤女 いいよいいよ。

⑤男 大丈夫、読み終わってからでいいから。

⑤女 あーごめん。一応もう最後の方だから（原稿を再びとって読む）

⑤男（紙の束をいくらか取り、ホッチキスで止めている）

⑤女（読み終わり、原稿を置く）

⑤男 よくわからんっしょ？

⑤女 ……うん。これって、これで終わり？

⑤男 いや、これまだ4場までのやつでさー、たぶん8場か9場くらいまであるらしいんだけど。

⑤女 あ、じゃあ半分くらいってこと？

⑤男 そうだね、たぶんそんなくらいじゃねーかなー。

⑤女 そうだよね、やっぱね。もう全部完成してんの？

⑤男 いやー、どんなかねー。このこれで本読みするってことは、まだここまでってことなんじゃない？

⑤女 あーね……てかさー、これどーゆー話？

⑤男 ん？

⑤女 なんかさ、たとえばさ……まず、大輔って誰？

読んでて。

⑤男 いやいやいやいや、登場人物でしょ、ただの。

⑤女 じゃなくて、出てきすぎでしょ。何人いるの？大輔。

⑤男 あー、まあ……でもあれじゃん？ いろんな大輔を描いたゼイエーイみたいな。

⑤女 でも絶対みんな違う人間でしょこの大輔たちは。まあ1場と4場は一緒か。

⑤男 後半でいろいろわかるっていうパティーンのアレなんじゃん。ありそうじゃんいろいろそういう映画とかも。

⑤女 ふうん。……ちなみにさ、どれが本当の大輔なの？

⑤男 ん？ どういうこと？

⑤女 だってこれ大輔って絶対あんだのことでしょ。わざわざおんなじ名前使わんでしょ、しかもこんな何人も。

⑤男 まあ、そうね。なんらかのねらいっていうか、そういうのはあると思われるけどもね。

⑤女 だからあんたから見てどれが本物の大輔っぽいやつなの？この台本のなかで。

⑤男 えーなにそれー。これが本当の俺だよー。

⑤女 そういふのは別にいいんだけどさー、だ

ってさー、大輔って軽薄っていうかペラッペラじゃん人間性。

⑤男 えーひどーい、急になに？ そんなことないでしょ。

⑤女 この台本の大輔の方がちゃんとしてそうじゃん？実際のあんたに比べたらって話だけど。だからわたしの的に大輔っぽくないわけよどれも。だから、本人から見れば一番近いのかなーなって思っ。大輔オブ大輔よ。

⑤男 いやいや、俺結構そうでもないよ。意外とギャップの大輔な側面あるんですけど。

⑤女 なんかギャップの大輔って。

⑤男 えー、どれがって言われても、まあどれも俺っぽいっちゃ俺っぽいよ。

⑤女 えー嘘だよー。

⑤男 だって、結構考えてることか、あーあるなーみたいなの。

⑤女 カレー食べたいとか？

⑤男 そこかい！ じゃなくて、世界がいくつもあるってどうこうみたいなのことか。

⑤女 え、あんた浮気してんの？ 待つて信じらんない！

⑤男 ちがうちがうちがう！ そういうことじ

やないでしょ！ いまは絶対にその話してないでしょーが。

⑤女 えー、そうなの？ え、じゃあなに？ これ全部本当の話？

⑤男 いや、全部とかじゃないけど。全然違うところもあるし。元カノが友達にオススメされて意味わからん健康器具みたいな買って帰ってきたとかはあったけど。あとやぎ座は浮気しやすいからお前浮気してるだろって言われたのは本当。

⑤女 どんな女と付き合ってるの？ あんたの見る目よ。

⑤男 そんな男と付き合ってるあなたもあなたですけど。

⑤女 え、じゃあなに？ 取材とかされたの？ 春樹さんに。

⑤男 いや特に。

⑤女 飲み会とかで喋ったとか？

⑤男 いや、春樹さんとそんな話したことないし。

⑤女 え、じゃあなんで春樹さんそのこととか全部知ってるの？ なんか怖くない？ 気にならんのか？

⑤男 わからんけど、誰かが話したんじゃない。

⑤女 えー、まじー？ だって普通、台本にこ
んなって書くんだったら本人に許可とつた
り確認したりしない？

⑤男 まあ……

⑤女 聞いてみたら？ この話なんで知ってる
んですか？って。だって一応プライバシー
とかもあるじゃん。

⑤男 でも、春樹さんに話しかけるとか緊張し
てできんし。なんか雰囲気のアレなんだよ。

⑤女 えーなんかそういうの嫌ー。権力笠に着
てる感じしない？……え待って、コソコソ
調べてたとかそういうことない？ ストー
リーの的な？

⑤男 春樹さんが？ 俺を？ いやいやないで
しよ！ 絶対ないよそれは！

⑤女 あ、そうだよ！ だって、2場でき、あ
ったじゃん、春樹さん大輔のこと好きかも
よみたいなくだり。あれって要は俺の気持
ちに気付けよ大輔！みたいなことだったん
じゃないの？ 遠回しの愛の告白的な。

⑤男 そんなことしないってー、いくらなんでも。

⑤女 ってかき、自分なんかいま2場とおんな
じようなこと喋ってん？ なんがちよつと

一瞬怖くなったんだけど。

⑤男 たしかに。(少しふざけて) え、これも台
本通り？

⑤女 そうかも。(見回しながら) どっかにいる
な？ 春樹。

間

⑤女 でも冗談じゃなくさ、ほんとにさ、なん
か喋らされてる感じしない？ なんか、誘導
されてるみたいなの。

⑤男 や、あんまりわかんないけどねその感覚
俺は。

⑤女 でもどうする？ これ台本だったら。

⑤男 第5場ってこと？ これが。

⑤女 そうそう。書き換える？

⑤男 どういうこと？

⑤女 春樹さんが予測してないことをここでバ
ーって口走るみたいなの。

⑤男 なんじゃそりや。アドリブってこと？

⑤女 そう、アドリブ！

⑤男 一応もし台本だったとしたら、めっちゃ嫌
いだからね春樹さんアドリブとか入れるの。
それこそ会話とかできなくなるよ今後。

⑤女 書き換えるのも？ アドリブじゃなくて、
前もって変更してもらおうようにお願いする
とか。この台詞こんなこんなって変えて
いいですかーみたいなの。

⑤男 絶対無理。

⑤女 えーまじかー……じゃあさ、書き換えダ
メだったら、消したらいいんじゃない？

⑤男 どういうこと？ なにを消すわけ？

⑤女 記憶よ。

⑤男 なに？ やけ酒飲んで忘れれみたいなの？
⑤女 ちゃうちゃう。メインブラックよ！
ピカッとさせて記憶消すでしょ、宇宙人の。
あれを、春樹さんにやればいいわけよ。

⑤男 えーなにそれ。

⑤女 え、わからんの？ メインブラック。映
画。

画。

⑤男 わかるけど。じゃなくて、どんなってや
るわけ？

⑤女 (FPを取り出し) じゃーん。

⑤男 ……なにこれ。

⑤女 これさ、友達にオススメされて買ったん
だけどさ、限定らしいんだけど、めっちゃ
安くて買えたわけよ。

⑤男 え、これでなにすんの？

⑤女 目つぶって？

⑤男 え？

⑤女 いいから。

⑤男（渋々目をつぶる）

⑤女 どこかにいるでしょー春樹さーん。いい？こつち見とけよー、サングラスとかかけんよー、ちゃんと見とけよー春樹ー（目をつぶり、ボタンを押す）

ピカッと光る。

【6】 第6場

男Aと男B、向かい合って座っている。

⑥男B それでは、本日はよろしくお願ひします。

⑥男A はいはい、いいよ。よくここまで来たねって、僕は思ってるよ。よくここまで来たね。私の名前はピカッとマスター。この世界のすべてのピカッとを司ってたりするってというのが、一応自己紹介だね僕の。

⑥男B ……司って「たり」っていうのは、他にもなにかやってるんでしょうか？

⑥男A まあそうね。まあ主にアレかな。あのー、草刈りとか。洗濯とか。

⑥男B マスターなのに。

⑥男A 生活があるからねこつちだって。草刈りとかやらないと大変なるし。ね？誰かやんないといけないでしょ？

⑥男B まあはい。あのマスターは、主にピカッとを司ってるよ。

⑥男A いかにもだね。

⑥男B 初歩的な質問で恐縮なんですけれど、も、そもそもピカッとっていうのはなんなのでしょうか？

⑥男A んーとね、これ結構説明が難しいって言うかややこしいっていうか、うーんとね、ピカッとっていうのはアレよ、簡単に言ったら、世の中の影響力みたいなものの総体っていうか、そういう感じ。

⑥男B 影響力？

⑥男A うーん、そうね。影響力だね。

⑥男B 人を動かす力みたいな感じですか？

⑥男A あーそうね、そういう本あったよね昔ね。『人を動かす』。自己啓発？ビジネス書かな？ あったあった。懐かしいなー。読んでないけど。でもたぶんそれだね。人を

動かすだね。

⑥男B はあ。

⑥男A でもね、最近のピカッととはちよつといろいろ変わってきてきてき。やっぱ時代だね、ネットの影響かね？ もうね、言葉は通じないね。絵だね、絵。絵っていうか、図？ イメージ？もう言葉すら必要なくなってるねピカッととはね。あとね、アカウントっていうね、ちよつとよくわかんないんだけど、アカウントっていうのがあるからね今は。わかる？アカウント。困ったらアカウント消せばいいさーねーってね、言うよね、若い人はね。あれはどういう意味かね？

⑥男B いやあ…：…こういういろいろシステムの変更みたいなものは、マスターが変えられたんですか？

⑥男A いやいや、私にはそんな力ないよ。

⑥男B え、でもさつき司ってるって。

⑥男A 司ってるけども、なんていうのかな、役人みたいな、役所の課長みたいな感じよ。判子押すみたいな。

⑥男B 許可するみたいな？

⑥男A そうそう。このピカッとを認可するかな、しないか、みたいな。

6男B ……えっと、もうすこし詳しくお聞き
していいですか？

6男A そうか……うんとね、武器よ武器。武
器の許可をしてるわけ俺は。

6男B 武器？ ピカッととは影響力であり、武
器である、ってことですか？

6男A そうそう。『影響力の武器』っていうビ
ジネス書あったよね。読んでないけど。だ
からつまりあれよ、ピカッとっていうのは
ね、ビジネス書のことだわけよ。

6男B なるほど……えっと……

6男A まあだいたいそんな感じよね。

6男B はあ……

6男A 真面目な話をするとね、ピカッととはね、
3つのピカッとがあって、くつつくピカッ
とと、消えるピカッととね、あともう1個、
吸われるピカッとがあるわけね。「すわれる」
ってあれよ、キャン・シットじゃなくてピ
ー・サックドのほうね。キャン・シットの
シットは、汚い罵り言葉のシットじゃなく
て座る方のシットね。エスアイティーのほ
うね。言わずもがな……なんの話だったけ？
……ああ、そうそう、くつつくピカッと消
えるピカッと吸われるピカッと。この3つ

ね。あなたはどのピカッと？ ってなにか
のCMでアイドルが言ってたよね。あれな
んのCMだったけ？ 思い出すのちよつと面
倒だからアレだけど、あなた記者だから調
べられるでしょそれくらい。

6男B ……ええ。

6男A シナプスがどうこうっていう専門的な
話もあるんだけども、ややこしいからいい
よな。べつにわからんでも使えればいいか
らね。数学できんでも生きていけるだろみ
たいいな。

6男B ……あの、今回こちらの台本、読ませ
ていただいたんですが、こちらはマスター

がお書きになられたんですね。

6男A あー、これね。そうそう。わたしの仕
事はそういう仕事ですからね。ちなみにい
まこれ喋ってることを原稿に起こして、そ
れが第6場になる予定だからちゃんと喋っ
てちようだいね。

6男B はあ。

6男A まあでもどうせ僕が書くわけだからあ
なたが何喋ろうと関係ないけどね。どうせ
書き換えるからね。

6男B ……

6男A したらじゃあ、だー、まずはあんたが、
ピカッとがなんの役に立つのかって僕に質
問してごらん。

6男B ……はい？

6男A はーっし、なんでわからんか？ だか
ら、あんたが僕に聞きなさい。ピカッと
は、何の役に立つんですか？ っつて。

6男B ああ、はい……ええっと、ピカッととは、

なんの役に立つのでしょうか？

6男A それは自分で考えなさい。

6男B え？

6男A それを聞くってことは、それ相応の覚
悟があるのか？ にーさん。あんたの覚悟は
どれくらいなのか？

6男B ……。

6男A もうインタビュー終わりな。

6男B いえ、すみません。ちゃんとやりませ
んで。

6男A いいよやらんでも、どうせ僕が後から
書けば一緒だろこんなの。

6男B いや、そういうわけには。

6男A なにか？ 文句あるのか？

6男B いや、でなくて、これが仕事なので。
マスターにインタビューを取るっていうの

が。

6男A だから、いらんたら！ お前が聞き取ったものがどれくらい台本に反映されると思ってるのか？ は？ なんかお前は神様か何かか？ お前がこの世界作ってるのか？ 違うだろ！ 僕がやってるんだよ全部！ 僕のやることなんだよ！ 身の程も知らんでからに。

6男B いや、反映されなくても、自分の仕事くらいはしっかりやりたいんです僕は。

6男A そういのがいらんなんだよ。言っとくけどな、お前みたいな、自分の人生は自分のものだと自分で決めるべきだとかって何か勘違いしてるやつがたくさんいるからこの世界はだいぶ生きづらくなってんだろ？ だから僕みたいな存在が必要なんだろ？ わかってるのか？ お前のせいでの世界はどんどん崩れて醜いものになっていってるんだよ。はーっさ、情けない。この期に及んでそんなことしか言えないのか。自分の仕事をしたい？ いいよ、いらん、やらんでいい。俺が決めるよお前がやることは。

6男B ……。

6男A ……じゃあわかった。特別な。お前

インタビューしたいんだろ？ じゃあお前のそのペン持つてる右手だけはずっと生かしておいてあげるよな。したらいつでもどこでもインタビューでも物書きでもなんでもできるからいいだろ？ 嬉しいだろ？ その代わり、あとは死ぬ。いいか？ そうしような。あとこれもほんとに特別サービスだ、健康的な死に方をさせてあげような。ありがたいと思えよ？ こんなやさしい死に方ないからな？ オーガニックコットンであるだろ？ あれは素材がとていいから、それですべてもいい死に方がお前にはできるはずだから、よかったな。説明するから一回で覚えれよ？ 本番は僕はいないからな？ まず、お前の口の中にオーガニックのコットンパンを詰め込んで、そこに30秒に1滴くらいのスピードで1滴ずつ水滴を垂らして、水吸って縮んで硬くなったコットンを口に含んだままで、それでもずっと水滴は落ち続ける、みたいな、そういうロハスな拷問を続けていった結果最終的に窒息して死ぬ。環境に優しいし、お前の身体にも優しい。これすごくないか？

全員がウインウインじゃないか？ これがビジネス書の効用だよ？ こういう発想をみんながしたら世の中から変な争いとか戦争とかなくなるんじゃないかと僕は思ってるんだけどお前はどんなか？ つてさっそく綿を詰めようとしたらお前は自分で自分のペロを噛み切って死ぬ。お前の右手はもうどこかに消えている。どこかに逃げたのかもしたらんけど、僕にはどうでもいい。その死体を抱えて僕は海に行き、お前の身体を切り刻んでその破片を海に投げる。そして魚がどんどん寄って来てお前の身体が魚の身体に入っていく。こんな魚は食べたものじゃないなーとかって思うけど、地元の人たちはその魚を捕り、家に持ち帰り、食べ、手足が震え、視野が狭まり、意識が朦朧とし、死ぬ。オーガニックコットンを食べ損ねたお前を食べた魚を食べた人が死ぬ。たくさん死ぬ。こうしてお前は世界をダメにする。かわいそうな世界。お前のことを世界は忘れない。お前なんか最初からいいほうがよかった。ありがとう。忘れないよ。大輔。

【7】 第9場

どこからか、女の声が聴こえてくる。

⑨女 ダークくん。聴こえる？聴こえてるかな？

聴いててね。ダークくん、苦しいんだよね、いま。なんかね、そこらへんのことぜんぶ台本に書いてあるよってことらしいんだけどさ、わたしは、目が見えないじゃん？だからさ、読めないんだよね。なんか、一瞬でその全部の言葉が脳に直接入って来る技術とかあればいいんだけどね。なんかピカッと光つたらもう頭の中にインプットされてるみたいなの。まああったとしてもわたしは見えないからアレだけど。とにかくダークくんが苦しんでるらしいぞっていう状況で、でも、わたしの力ではダークくんを助けるとかっていうのはできないっていうか、わたしは無力ってのをわたし自身は知ってる。でもわたしは、それでもダークくんを助けたいと思ってるよ。どうやれば助けられるかなって思ってる、でもわたしにはそんな力はないし、だってわたしはもう長いこと目が見えないまんまだから、だからいまダ

ークくんがどういう顔をしてるかとかもわからないんだけど、でもどうにかしてダークくんを救いたいと思ってるよ。ダメかな？お節介かな？これって。いいよね？ダークくん優しいから、全然許してくれるよね？

ほんとならば、わたしはダークくんをぎゅーって、大丈夫だよーって抱きしめてあげたいのほんとには。それだけじゃなくて、もっと愛したいっていうか、結婚とかもしたいと思ってる、ダークくん。小さい頃からそう決めてて、わたしはダークくんとは結婚するって。でも、その可能性がないっていうのは、ダークくんが大学の時くらいにもう気づいたわけ。小さい頃とかどんなに仲良くてもさ、どんなにダークくんがわたしに優しくしてたつてのがあっても、どんなにわたしがダークくんのことを想ってても、でもダークくんはわたしは恋愛対象じゃないっていうか。だって、大学の時くらいから春樹くんのことが好きになったでしょダークくん。そのことは誰にも喋ってはなかったけど、友達ってしか言っていなかったけど、ダークくんが春樹くんのことどう想ってたかっていうのは、実際には目では見てないけど、でも

わたしはだいたい知ってた。

春樹くんのことが好きになる前さ、大学入ってすぐ、はじめてダークくんに彼女ができた時、その子との初めてのエッチの時、気持ち悪くなってやっぱりできなくて、吐いちゃったりとかして、それでその子はショック受けて、別れた後ダークくんの悪口とか、ほんとには秘密にして欲しいこととかを全部ぶちまけるみたいにして盛り盛って周りに言いふらしてさ。それでダークくんの周りからどんな人がいなくなった時、ほんとにはあのとき、ああいまこそわたしの出番なんじゃないこれは？とかって、ちよつとラッキーぐらいに思ってたんだけど、いま考えたら最低だよね。だからさ、あのあと、春樹くんっていう本当にいい人と巡り会えたダークくんが人としての尊厳みたいなものを取り戻していくのを見ながら、実際には見てないんだけど、目が見えないから、ちよつと春樹くんに嫉妬っていうか、ほんとにはわたしは助けてあげられてたらなと思った。でも、いまだつたら思うよ。ほんとに、あのときダークくん春樹くんと出会ったよかった。わたしは、春樹くん、ほん

とに尊敬してるから。春樹くんなら、ダーくんのこと一生大切にしていこうと思う。わたしのこういう感覚って、目が見えないからこそ、結構発達してるって自分では思ってるから、そのへん信じてもらって大丈夫だと思う。

小学校3年生のとき、わたしの目が病気でのがわかって、だんだん見えなくなっていて最後には完全に見えなくなってしまうってことがわかって、あのときはほんとに、文字どおりお先真っ暗というか、え、これってどんなって生きていけばいいのわたし？って、ほんとに絶望的な気持ちになってたんだけど、でもダーくんがさ、あのとき、覚えてるかな？じゃあ明日から帰る時俺が手繋いでから帰るからお前帰るなよ？って言うってくれてさ。まあ結局、わたしはそのあと盲学校に転校することになったからずっと一緒に帰るってわけじゃなかったんだけど、でもあのとき手繋いだ時の感覚とかってすごいあったかくてなんか気持ちよくてさ、毎日楽しみにしてたんだよ実は。転校してからも、しょっちゅうわたしの家まで迎えに来てくれて、いろんなところ連

れて行ってくれたさ。いま夕焼けがめっちゃデカくて、これはアレだな、俺たちがミノムシだったら夕焼けは東京ドーム145個ぶんくらいってくらいに差だな。とか訳のわからない喩えを言ったり、遠くの方でカップルが歩いてるんだけど、あれ男の方アレだな、歩き方からして絶対股ずれしてるぜ、わかる？股ずれ。股間の横のところ赤くなってからめっちゃ痛いわけよアレ。って本当にどうでもいいことを喋ったり。わたしの視力がなくなってる、もう光を見ることができない、闇の中でしか生きていくことができない、ってわたしがなっても、それでもこうやってここまで楽しく生きてこれたのは、これはもう本当に、確実に、何度でも言いますこれは死ぬまで！ってくらいに、ダーくんのお陰だから。ありがとう。だから今度はわたしの番っていうか。ダーくんもしかしたら、自分で自分の世界を壊してしまおうとか思ってるかもしれないけど、そうはさせないよっていうか、残念でした死なせませんよまだ、みたいな。だって、わたしがこうやって呼びかけることで、

話しかけることで、ダーくんが存在するから。だからダーくんは、大袈裟にいうとわたしが生んだっていうか、子どもみたいな存在っていうのかな、わたしの。っていうことにしててもいい？

で、ダーくんダーくんって話しかけたとき、同時にわたしも存在することになるの。そのことを、ダーくんにもわかってほしいっていうか、ほんとに感謝してる。だって、わたしはほんとに存在してないんだけど、わたしもそのことはちゃんと知ってるんだけど、でも、ダーくんがこの声を聴いてることもちゃんと知ってるよ。

だから、だからっていうか、さっきわたしがダーくんとの思い出みたいなのを語ったけどさ、あれだってほんとにわたしの作り話には違いないんだけど、ああいうふうに語ることでわたしには本当になるし、ああ良い思い出だって感じたりする。ありがとう。だから、ほんとにダーくんのことなんて何も知らないし、そもそもいないんだよ、わたしもダーくんも。だから極論をいえば、べつにダーくんじゃ

なくてもいいわけよね。しげちゃんでもひろしでも金城さんでもボブマーリーでもいい。でもせっかくダーくんなんだからこのままダーくんできこうと思う。最終的には、わたしのこの話が終わる時には、語りかけたのはダーくんであって、好きになったのはダーくんであって、好きにならなかったのはダーくんであって、これは決まってるっていうか、確信してる。絶対。

これは、わたしの頭の中だけで語られてるだけだから、わたしのなかだけにしかダーくんは存在してないわけだけど、でもこれを第三者っていうか誰でもいいからわたしのこの語りを聞いたり、それか文章として読んだりみたいなことがもしあるんだとしたら、そのときにはたぶんダーくんはちゃんと実在してるってことに、その人にとってなるのかなーって思うんだよねわたしは。そうなることを願ってる、わたしは。だれかに届けて。ダーくん以外の誰かのなかにダーくんの存在が届けばいいなって思ってる。それってある意味、わたしもちゃんと存在できるって話でもあるし。だからどうやれば届くかなーって思ってる。これが

いちばんの問題なんだよね実は。だってさ、わたしは実体がないっていうか、肉体をもっていないし、だから声を出すこととか、文章を書くとか、そういうこともできないし、だから誰かにどうやって伝えればいいのかっていうのが、これからのわたしの永遠のテーマだはずね、たぶん。

ダーくんもわたしもまだ実在してないし出会ってもないけど、でもわたしのなかにはすでにダーくんとの素敵な思い出とか一緒につくってきた関係性とかとつてもとつても大切な時間がたくさんあるから、最終的にそれも全部消えてしまいうってことはわかっているんだけど、わかってたとしても、わたしはそれを選ぶよ。それはもう決めたの。いいかな？ いいよね。そうしたい。ダーくんはどう思う？

【8】 第7場

4場でてきたカレー屋の店主は、実はカレー屋の店主ではなく、大輔の父親だった。

父親、大輔、春樹、部屋に入ってくる。
大輔は暴れており、春樹がそれを支えている。

うしろから、大輔Bが付いてくる。

大輔 いや……いや……いや、おじさんさ、いくらなんでもそれは良くないと思うよ俺は。どんだけカレー屋を繁盛させたいか思ってもさ、いくらなんでもそれは、って感じだよ本当に。わかる？

父親 いや、お父さんはさ――

大輔 お父さんはとかじゃなくて、ね？おじさんのお店アレでしょ？お客さん集めてたでしょ？ピカッとで。ね？あれで繁盛させてもさ、それってさ、言っとくけど洗脳だからね？わかってる？

父親 うん、でも、お父さんはカレー屋さんじゃないよ。

大輔 いいよもう、わかったから、次からやらんでよ？警察には黙っとくから。わかったからピカッと出して。

父親 ん？

春樹 とりあえず座ろ？（座らせる）

大輔（すぐに立ち上がる）ピカッとよ、ピカッと

と。持ってきて、おじさんが持ってたなら危ない。預かつとくから。

父親（春樹に）ピカッとつてなんかね？

春樹 ちよつとよくわかんないんですけど、朝からずつと言つてて。

父親 そつか……あとね、いつから僕はカレー屋さんになったんかね。

春樹 昨日の夜とかはちゃんとお父さんのことわかつてたんですけどね。

父親 やっぱりお母さんが入院したつていうのがアレかね？シヨックで……。

春樹 どうなんですかね……。

大輔 いやいやおじさん、さつきから春樹とコソコソ喋ってるけど、ダメなもんはダメだからね。ピカッととは悪用したら本当にアレだから。危ないから！

大輔B え、大輔、お前気をつけれよ。ピカッとつてお前、プリンタだと思ってるかもしれんけどよ、あれ複合機だからよ。印刷だけじゃなくてコピーもスキャンも全部できるからよ。

大輔 は？ え、聞いたか？春樹。ヤバくないか？いまのが本当だったら、ピカッとでやりたい放題だよ。複合機とかヤバイだろ！

春樹 大輔。大丈夫だよ、お父さんはピカッと使つたりしないよ。

大輔 言つとくけど俺はよ、ごめんけど、ぜんぶ知ってるわけよ。春樹、俺はよ、ぜんぶわかつてしまつてる。俺はここに来るの2回目だからよ。まあ実際には俺じゃないけど、もう一人の俺はもう2回目だからよ！

春樹 お前の実家なんだから2回どころじゃないだろ。

父親 春樹くん、ピカッとつてなんかね？

春樹 いや、僕もわかんないですよ。

大輔 いやいや、春樹、しっかりして？ダメだよこの人に騙されたら。このおじさんがピカッと使つてからアレやつたせいで、ことなくそみたいなカレー屋にみんな並んでからに、集団自決も徳川埋蔵金もなかったとかつてデマも信じてからに、だから俺たちも全然就職とかうまくいかないんだ？

春樹 いやいや、それはいろいろ関係ないでしょ？ つてか就職してるし。

大輔 待つとけ春樹。お前、ピカッとされた？ そいつに。

春樹 されてないよ？

大輔（父親に）待つとけ、お前にした春樹に。

やつただろ！ピカッと！（掴みかかる）ふん！ やつただろ！

春樹 大輔！（と止める）

父親 大輔！ やめなさい！ お父さんはピカッとつてはやつてないよ！

大輔 早く出せ！ ピカッと出せ！お前のせいで春樹が大変なつてるやつし！えー！はやく！ピカッと出せ！もつてこい早く！

春樹 大輔！落ち着け！

大輔（離し）なんか？お前なんか最初からグルだったのか？……やっぱりそうか……嘘だろ、それだけはあるええないつて思つてたのに……。

大輔B だから言つただろ？ こいつが、ぜんぶの黒幕なんだよ。

大輔 春樹……お前、俺をどうしたいのか？

春樹 は？

大輔 お前あれだろ、俺のこと好きだからつて、俺の世界をぜんぶぶつ壊そうとして自分のものにしようとしてるんだろ？

春樹 は？

大輔 でも残念だな、俺浮気してるからよ。お前はわからんと思うけど。お前の知らないところで俺は浮気してるからよ！

父親 え、付き合ってたの？

春樹 いやいや、違いますよ。大輔？ なんか

浮気って。そもそも俺たちいつから付き合
ってるば？

大輔 同棲だからって油断してたなお前な。

春樹 ルームシェアね。

大輔 言っとくけど、俺は台本読んでるから
よ！お前はそれのことしらんと思うけど。

春樹 台本？

父親 なんね？台本って。

春樹 いや、わかんないです。大輔、台本って
なに？

大輔 いいよとぼけなくて、俺は6場までだけ
ど、(大輔Bを指し)こっちの俺はもう9場
まで全部読んでるからよ。

春樹 (指された方を向く) ……え？ はい？

大輔 だから、いまは第7場やっし？ だから
6場までは読んでるわけよ俺は。お前には
黙ってたけど実はそうだわけよ。

春樹 6場とか7場とか何を言ってるば、お前
はさつきから。

大輔 お前が作ってるんだろこの台本は。もう
隠さんでもいいから、ほんとに。ピカッと
マスターなんだろお前は。もういろいろ教

えてもらってるからよ。こっちの俺はもう
すでに全部読んでみてきてるから。

春樹 ピカッととマスターってなに？ あと、も

うひとりの俺ってなんか？遊戯王か？

大輔 B (父親を指し)で、こっちのこいつがカ
レー大臣。

大輔 は？お前カレー大臣だったば？

父親 なんか、カレー大臣って。

春樹 大輔、一旦座ろう。まずは、な。

大輔 ごめんな春樹、俺よ、実はよ、好きな人
がいる。お前じゃない人。マスターの思い
通りに俺はいかないだよ、ごめんな。

春樹 マスターって俺のこと？なんのマスター
ー？

父親 ポケモンじゃないの？

春樹 どっちにしても大輔に好きな人ができた
んなら俺は応援するよ？

大輔 悔しいか？

春樹 なんでよ。

大輔 意味よ、悔しがれ！

春樹 どうした？

大輔 いいよ、じゃあ俺はもう行くよ？ (玄関
へ)

春樹 (止める) 待て待て。

父親 (春樹をサポート) どこに行くのか？

大輔 9場よ！ 第9場！ この台本の9場ま
で行かんといけんわけよ俺は！

春樹 なんでよ、どこかわかんけど、なにし
に行くば？ べつにいま行かんくてもいい
だろ？

大輔 待ってる人がいる！

春樹 誰よ？

父親 お母さんところか？

大輔 なんておかーよ？

父親 じゃあ皆で行こう？な？お母さんところ
な。

大輔 なんてお前がおかーのことわかるば？

春樹 じゃあみんなで行こう。大輔、ちよつと
休んでから、それから行こう。な？

大輔 いいよ俺は一人で行くから！ (大輔Bを
指し) もう一人ここにいてるやっし俺が。こ
いつと一緒に行け！俺はひとりで行く！
(振り払って外へ)

春樹 えー！

父親 ……どうするかね？

春樹 ……追いかけます？
父親 ……そうだね。

二人、外へ出て行く。
大輔B、ひとり残っている。

【9】 第8場

女、土を掘っている。
しばらくして、男、やってくる。

⑧男 ただいま……なにしてんの？

⑧女 ……うん、ちよつと。

⑧男 家庭菜園？

⑧女 ……これ。(A4サイズの封筒を渡す)

⑧男 なに？

⑧女 台本。

⑧男 台本？ なんの？

⑧女 さあ。舞台じゃん？

⑧男 は？(封を開け中から原稿を取り出し、パラパラめくる) 誰が書いたの？

⑧女 さあ……

⑧男(封筒から何かの塊を取り出す) なにこれ。

⑧女 大輔。

⑧男 は？

⑧女 大輔の右手だよ、これ。一緒に送られてきた。

⑧男 ……え、待つてどういふこと？

⑧女 わかんないけど。向こうが切り取ってから送ってきたんだよ、この台本と一緒に。

⑧男 ……じゃあ、やっぱり死んだってことか？

⑧女 そんなの前からわかってたじゃん。だからあんたは普通に仕事とか続けてられたんでしょ？

⑧男 ……

⑧女 大輔帰ってきたんだよ。嬉しくないの？

⑧男 ……いや、ちよつと、っていうかだいたい混乱してる今……。

⑧女 ……大輔が書いたんじゃないかな、この台本。

⑧男 いやいや、5歳だよ？

⑧女 生きてたら6歳なつてたけどね。

⑧男 っていうかこれ本当に大輔の手なのか？ 嘘だろ？

⑧女 嘘じゃないよ。

⑧男 わかんないだろ？ これだけで胴体もないのに。

⑧女 だって、犯人からのメモみたいなのにも書いてあったもん。殺したけど、右手だけは残しておいたから郵送するって。

⑧男 でもさ。

⑧女 わかるに決まってるじゃん！ こっちは毎日手繫いで保育園行ったり公園行ったりしてたんだよ？ 間違えるわけないじゃん大輔の手を！

⑧男 だけどさ……

⑧女 よかったじゃん、誘拐されてた子どもが帰ってきたんだよ？ 素直に喜べばいいじゃん！

⑧男 お前は喜べるば？

⑧女 喜べるわけないじゃん！

⑧男 は？

⑧女 でもほかになにもどうすることもできないから困ってるでしょ！ どうしれつていうわけ？ 大輔おかえり、つてやるしかないじゃん。

⑧男 気持ち悪くないのか？

⑧女 なにが？

⑧男 なんでそんなつて割り切れるば？

⑧女 あんただつて割り切つてずつと仕事してるんじゃない。今日だつてこんな遅くまで仕事してるんじゃない！

⑧男 ……いや、でもそれは生活のためだろ？

⑧女 子ども死んでるのに生活も何もなし

よ？

間

⑧男 これ、お墓ってこと？ いま掘ってるの。

⑧女 お墓？ まさか。

⑧男 え、じゃあなににしてんの？いまこれ。

⑧女 ここに右手を植えて、そしたら、大輔が生えてくるの。ここから。

⑧男 ……ちよつと待て。どういうこと？

⑧女 ここに大輔を植えて、祈るの。毎日祈るわけ。そしたら、なんか、よくなるんだよ。

⑧男 なにが？ なんかよくなるって、そんな曖昧なアレ。

⑧女 いいの！こうしたいの！

⑧男 なんでよ、なんかの宗教とかはじめたば？

⑧女 なによ、ダメなの？ もしこれが宗教とかだつたらなんだわけ？ 胡散臭い？気持ち悪い？

⑧男 いや宗教だからアレとかじゃないんだけど。

⑧女 よくわからんこと言ってるから信用できないってこと？じゃあなに？これがもしキリ

スト教とかの正式な儀式だよって言ったらあんたはオツケー出すわけ？

⑧男 ……

⑧女 ……あんたと、大輔と、大輔のこの右手

と、わたしにはこれだけしかないんだよ。だからさ、もうちよつと近くにいてよ。も

つとよくなれるはずなんだよ、わたしたち。

⑧男 ……ごめん。

⑧女 ……これさ、2回目だわけ。

⑧男 なにが？

⑧女 こんなつて、大輔の右手と台本とが送られて来るっていうのが。

⑧男 は、どういうこと？

⑧女 っていうか、あんたと出会って、結婚して、大輔生まれて、誘拐されてっていうそれ自体が、2回目だわけわたし。わたしっていうか、わたしたち。

⑧男 ……それはどこまで信じていいやつ？

⑧女 べつに信じなくてもいいけど、そうなんだよ。2回目だからさ、わたしがどうにか頑張ったら誘拐も防げるんじゃないかなって思ってたんだけどさ、ダメだったよやっぱり。けどこの台本さ、1回目と違うんだよ、内容が。1回目のときは第7場まで

しか書いてなかったんだけど、今日届いたのは第9場まであったわけ。しかも8場は、わたしたちのことが書かれてるの。1回目のアレが。しかも7場までも、ちよつとずつ話も変わってたりして、書き換えられてるんだよこれ。

⑧男 ごめんまだ頭が追いついてないんだけど。

⑧女 いいの、このやりとりをするってことが大事なの。ってことはだよ、変えられるってことなんだよ、このアレも、運命も。だって実際ちよつと変わってるんだから。だから、わたしたちふたりで、もっと良い方に変えていけるんだよほんとは。

⑧男 それって生まれ変わりとかってこと？

⑧女 ちがう、演じ直してんの。もう一回、同じ人生を上演してるんだよ。

⑧男 え、なに？ 演劇かなにかの話？

⑧女 そう。たぶん大輔が、っていうか大輔の右手がちよつとずつ書き換えてんだよきつと、台本を。たぶん最後の体力つかって書き換えて、それがわたしたちのものにこうして届いてるんだよ。だから、あんたとわたしもそれに協力するわけ。わかる？

⑧男 え、どうやって？

⑧女 だからこうやって右手を植えてんでしょ？大輔の。もうすぐたくさん右手が生えてきて、たくさん右手で大輔にこの台本を書き換えるの、大輔が。だからわたしたちは準備しないといけないわけ。

⑧男 なんの？

⑧女 なるってあんた、3回目でしょ！もう誘拐とかさせないし、愛するわが子を守るんですよ。そのためにわたしたちは2回目生きてるんだから！……とりあえず、はいって言って。

⑧男 ……はい。

⑧女 オッケー！……やるよ。

(了)